

7月3日 能登半島地震に係る感謝状贈呈式

能登半島地震の公費解体事務業務支援活動に積極的に取り組んだとして西原町に環境大臣から感謝状が贈られました。西原町は、能登半島地震の被災地支援を行うために職員2人を被災地に派遣し、2人は人的支援として、石川県輪島市役所で公費解体申請の受付業務に従事しました。

被災地支援を行った寺澤嗣子さんは「被災の大変さや防災の大切さを痛感したことが大きく、少しでもそれを伝えていきたいと思う」と話しました。同じく、被災地支援を行った比嘉利佳さんは「今回の派遣では、近隣の自治体から派遣されている職員の方も多く、とても勉強になった。沖縄県が災害にあったときは、県外からの支援が難しいため、近隣市町村で協力し合うことが大切と改めて実感した」と述べました。



7月4日 道路河川愛護デー

第44回西原町道路・河川愛護デーが西原町商工会員、町シルバー人材センター会員、コンサルタント会社及びその他の団体、町役場職員により実施され、小波津川の清掃活動が行われました。

この活動は、地域の環境美化に関心を持ち「道路、河川愛護の心」を高めることを目的として毎年実施しています。

今回の清掃活動には230人が参加し、小波津川沿いの草刈りやゴミ拾い等が行われました。



7月7日 西原クラブ女子県大会優勝報告

「令和7年度沖縄県スポーツ少年団バレーボール交流大会」で見事優勝に輝いた西原クラブ女子チーム（西原小）が、町役場を訪れ崎原町長に報告を行いました。

野原穂夏キャプテン（6年生）は「前回の県大会で2位だったため、勝てるか不安でしたが、ブロックやサーブで点数を決められてよかった。全国では、優勝を目指してこれからみんなで頑張っていきたい」と意気込みを語りました。

崎原町長は「西原町はバレーボールのまちを宣言しているため、そのプレッシャーがあったと思いますが、それに打ち勝って優勝したということをととても誇りに思います。12月に行われる全国大会では最後まであきらめず、優勝を目指して頑張ってください」と激励しました。



7月13日 区民待望の新公民館完成！掛保久公民館落成式

昭和49年に建設された旧掛保久公民館を50年ぶりに立て替え、このたび、新掛保久公民館の落成式が執り行われました。新公民館は、区民や区出身の有志、企業から寄せられた寄付金、補助金を活用し建設されました。

掛保久自治会の喜瀬和美会長は「皆様のおかげでやっと公民館が完成した。新しい公民館は、100年・200年持つように、また、住民の皆さんがとても使いやすいように設計されている。みんなの拠り所、居場所として新しい公民館を大いに活用していきたい」とあいさつしました。

祝賀会では、かぎやで風や国頭さばくい、詩吟が華やかに披露され、区を挙げて公民館の落成を祝いました。



参加無料 シェアサイクルの使い方を学ぼう ～サイクル講座～

町で取り組んでいる「シェアサイクル（電動アシスト自転車）」の利用を促進するため、「シェアサイクル使い方講座」を開催します！

専用アプリの登録方法、シェアサイクルの借り方・返し方など、お気軽にお聞きください！

ぜひ、多くの皆さまのご来場、お待ちしております！

日時 令和7年8月20日（水）午前9時～午後4時（お昼時間含む）

会場 西原町町民交流センター 町民ギャラリー（西原町役場内）

事前申込不要！上記開催日時でいつでも受付します！

シェアサイクル
ってなんだ？

使いたいけど
どうすればいいか
分からない…

会場で
待っています！



▲シェアサイクルとは

お問い合わせ：企画財政課 チャレンジプロジェクトチーム TEL:098-945-4533

文化財コラム 沖縄戦から80年 ～戦後の西原～

昭和20（1945）年4月1日の米軍の沖縄本島上陸後、組織的戦闘が終結するまでの3か月間にわたる沖縄戦を生きのびた住民は、米軍の捕虜となり収容所に送られました。

各地の収容所で分散して生活していた西原村民が故郷に戻れたのは、戦争が終わった翌年の昭和21（1946）年4月4日のことでした。戻れたといっても、我謝・与那城の一部地域にのみ許可が下り、その周囲には境界線が引かれ、そこを越えたり、他の集落に戻ったりすることはできなかったそうです。また、証言によると、集落内の屋敷は跡形もなく、一面雑草やススキが生い茂っており、昔日の面影はまったくなかったといいます。

村民は、現在の西原小学校一帯に建てられていた米軍用幕舎（テント）を取り壊し、旧役所（与那城85番地にあった旧西原村役所のこと）一帯に住民受け入れのためのテント小屋を建てました。そこから西原の復興が始まりました。その後、各集落への移動も順次許可されていきますが、西原は、米軍関係施設が多く建てられていたため、なかなか居住許可がおりない地域もありました。米軍の取水池の上流にあった翁長は昭和22（1947）年まで、米軍の弾薬庫があった津花波は昭和24（1949）年まで地元に住民が帰ることが許可されませんでした。特に日本軍が建設し途中放棄した小那覇飛行場（15万坪）は米軍に接収され、面積もその5倍（78万坪）に拡張されていました。その結果、小那覇は許可がおりるのがだいぶ遅れ、崎原・仲伊保・伊保之浜の3集落については、集落に戻れず住民は他の集落に移り住まざるを得ませんでした。

戦後の西原は、最初に帰村許可のおりた我謝・与那城などの一部を除き、村内の至るところに米軍基地や関係施設が点在する「基地のまち」であり、米兵やフィリピン兵に女性が乱暴されるなどの事件もあったといいます。



昭和43（1968）～昭和44（1969）年頃の西原。右奥に連玉森が見える。

参考文献：
『西原町史第1巻通史編』/西原町教育委員会
『西原町史第3巻資料編2西原の戦時記録』/西原町教育委員会

お問い合わせ：文化課 文化財係 TEL:098-944-4998

